

令和3年度第1回大野市地下水対策審議会の概要

日 時 令和3年8月26日(木)
午後1時30分～2時30分
場 所 大野市役所 大会議室

1. 開会

- (1) 市長あいさつ
- (2) 委員紹介
- (3) 事務局紹介
- (4) 会長・副会長の選出

2. 議 事

(1) 報告事項

① 「令和2年度大野市地下水年度報告書」について

- ・事務局から大野市地下水年度報告書について概要の説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり(要旨)

<地下水の変動状況について>

- 委員 : 木本観測井における平成27年の水温が15.8℃と高く、篠座観測井では13.7℃と低いのは、具体的に分析はできているのか。
- 事務局 : 原因については、今のところ分かっていない。

② 大野市水循環基本計画(R3.2策定)について

- ・事務局から大野市水循環基本計画について概要の説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり(要旨)

<3. 計画の進捗管理の水洗化率について>

- 委員 : 水洗化率が44.1%とあるが、水洗化として含まれているものは何か。
- 事務局 : 公共下水道、農業集落排水、合併浄化槽で処理をしている割合である。単独浄化槽は含まれていない。

③ 大野市図書館における重油漏れ事故について

- ・事務局から資料1 大野市図書館における重油漏れ事故について説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり(要旨)

<外の市施設の対応について>

- 委員 : 大野市文化会館等、市の重油を使っている施設についても確認を行ったのか。
- 事務局 : 図書館での油漏れが判明したことを受けて、改めて油漏れがないか確認を行い、異常がないことを確認している。

④ 地下水位表示板の更新について

- ・事務局から資料2 地下水位表示板の更新について説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり（要旨）

<水質検査の結果表示について>

○委員：地下水位だけじゃなく、飲料水として汲める場所については、水質検査の結果についても表示をお願いしたい。

→事務局：検討したい。

(2) 協議事項

① 大野市地下水保全条例全部改正の検討について

- ・事務局から資料3 大野市地下水保全条例全部改正の検討について説明を行った。
- ・委員からの意見等は次のとおり（要旨）

<水源保全林・涵養地域について>

○委員：変更の第28条括弧書きの部分の水源保全林・涵養地域について、水源涵養保安林とは違うのか。保安林だと非課税である。また地域指定も考えているのか。

→事務局：従来の地下水保全計画に森林を保全するというエリアの指定があったが、水循環基本計画では、計画の対象区域を市域全域としている。これを踏まえて、エリア指定についても一度検討したい。また、法令関係についても確認をしながら慎重に行っていく。

<現行の条例の融雪装置の使用制限について>

○委員：現行の条例で、第13条に「融雪装置の使用の制限」というのがあるが、人々が自粛しているようには見えない。第13条では、「当分の間」融雪のための地下水を使用してはならないとある。

→事務局：「当分の間」という文言については、改正案では削除しようと考えている。また、雪が降ると地下水位が下がる原因として、融雪での利用が考えられる。融雪における使用量について把握は出来ていないが、各家庭で設置されているポンプの能力は大体7.5～8mまでが限界である。これ以上地下水位が下がると、井戸枯れを起こしてしまい、市民生活に支障が出てしまう。そのラインを守っていかなければならない。

<国・県との関連について>

○委員：地下水涵養の面で、国・県の事業との関連が記載されているが、事前に調整できるものがあれば、調整して頂きたい。

→事務局：お願いしたい。

3. 今後の予定について

- ・事務局より、次回審議会の開催は来年1月頃を予定しており、その際に、地下水保全条例の改正案について提示したい旨の説明を行った。

4. その他

<本願清水イトヨの里の工事について>

○委員 : 8月の水位が高い時期にイトヨ生息環境改善のため、地下水を抜いて工事を行っているが、なぜこの時期に工事を行ったのか。

→事務局 : 地下水位が高い時期を避け、水位の低い秋以降に工事を行うことが通常ではあるが、今年度の工事では、生息池の浚渫に加え、コンクリート工事を伴う護岸補強を実施するため、天候などを考慮し今の時期の施工とした。生息池の水の上下によって石積み等の護岸が無い部分が侵食され、土砂が生息池に流れ込むことが汚泥の堆積の一因となっている。

<大野の水のPRについて>

○委員 : 新堀川について、義景清水から下流域、亀山の南側において、バイカモが繁殖している。水質が改善されている証拠である。また、清滝川とか真名川の下流域にもバイカモがある。PRして観光にもつなげたらどうか。

<全国トゲウオ保全シンポジウムの開催について>

・事務局より、9月30日に開催されるシンポジウムについて説明を行った。

5 閉 会